

H.18年度 教育学部専門科目

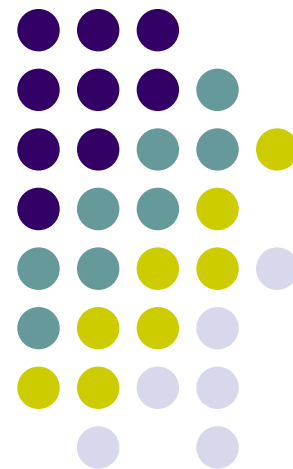
臨床心理学(5)

(臨床精神医学)

教育臨床心理学ゼミ

教育学研究科付属子ども発達臨床研究センター

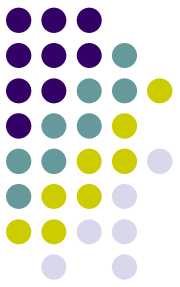
田中 康雄





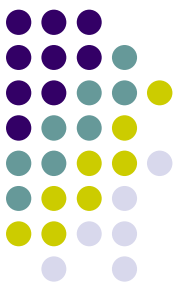
本日の流れ

- 前回の意見への返答
- DVDを見ます(軽度発達障害について)
- 発達障害について(1)



前回の意見への返答(1)

- 虐待の要因から
- 早期出産と愛情の関係
 - 早期出産の一部では、さまざまな医学的対応が必要なこともあり、早期の母子分離を呈しやすい
 - すべての要因はあくまでも可能性のひとつである
- 個人的価値観
 - 子育てにおいて、「いうことを聞かせるためには、暴力は当然。愛情があれば暴力は容認できる」という個々の思い
 - 「体罰は教育です」発言



前回の意見への返答(2)

- 心的外傷は、話をする事で消えることは出来るのか？
 - 心の傷は、消えることが目的ではなく、表面化すること、表面化して向き合うこと、向き合って、自分の歴史の一部に位置づけることが大切
 - トラウマは、あいまいにして、直面化しないために生じる
 - ひとつの防衛機制でもある
- 虐待を受け保護されることは必ずしもよいことではない、悪い家庭といえどもよい施設に勝る に納得できない。
 - 保護は大切であり、ひじょうによい施設もある
 - 再統合に反対する専門家もいるし、再統合が無理なことも少なくない
 - 子どもの主体性が軽視されること、家族を否定してしまうことは出来るだけ修正しておきたい



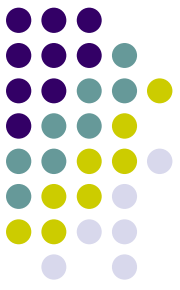
前回の意見への返答(3)

- 児童相談所では女性は働かないほうがよい、という助言を受けたが？
 - どのような職場でも、勤務するうえでの課題はある。
 - 女性だから、男性だから、という視点で決められるものはないでしょう
 - 働きがいがあるということが大切なのは
 - その仕事を通して自分自身を確立していくことになる



前回の意見への返答(4)

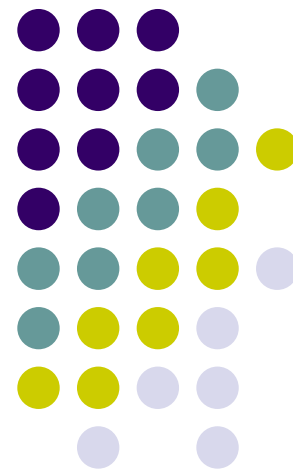
- 虐待をしてしまう側への支援はあるのか
 - ほとんど無いのが現実
- 早期対応について
 - 4ヶ月, 1歳半, 3歳児健診が早期発見の役割をもつ
 - 保育所, 幼稚園でも早期の気づきが多い
- 虐待状況は, 社会の健康度と成熟度のリトマス試験紙になるという意味は？
 - この課題にどの程度関心をもち, 具体的対応策を提示できるかが, 国の評価とならないだろうか
 - 少なくとも, 日本は「子どもの権利条約」を批准した国のひとつである



前回の意見への返答(5)

- 用語, 発言として「女の子にいたずらをする」という言い方, 表現は不適切である, という意見
 - 同意します
 - 近親相姦 は現在出来るだけ使用しないように留意しています
もし使用するとしても「近親姦」ということになっています
 - 虐待という用語への批判もあり, 最近はマルトリートメント (Maltreatment, 不適切な養育) という表記も目立ってきた

発達障害(1)





発達障害の内容と出現率(1)

名称	出現率	関連した課題
脳性麻痺	0.5%	知的障害, 視覚・聴覚障害
聴覚障害	1%(重度:0.2%)	知的障害, 視覚障害, 過活動, 言語障害
視覚障害	斜視:2% 視力障害:0.06%	知的障害 (48-75%)
行動障害	反抗挑戦性障害, 行為障害:2-15%	学習不振, 自尊心の低下, 事故に遭遇しやすい, 薬物・アルコール・性行為乱用
協調運動障害	2-6%	言語障害, 構音障害



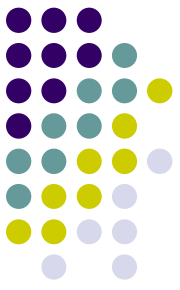
発達障害の内容と出現率(2)

名称	出現率	関連した課題
学習障害 (LD)	2-10%	言語障害(70-80%), 協調運動 行動障害
注意欠陥/多動性障害(AD/HD)	3-10%	LD(50-60%)
知的障害	2.5% (軽度域: 2%)	脳性麻痺, 聴覚・視覚障害, てんかん PDD, AD/HD, 言語障害
広汎性発達障害(PDD)	0.05% (0.6-1.2%)	知的障害(40-66%), 行動障害
コミュニケーション障害	3-10%	(表出および受容言語発達障害)



発達障害へのまなざし(田巻義孝)

- 障害をもった人を排除する弱い(不健康な)われわれの社会から, ひとりでも多くの障害のある人たちとともに生活する社会へと改めることが望まれる.
- 障害をもって生まれてきた子どもは障害を負わされることによって不幸となるのではない。「障害をもつ子どもは不幸なのだ」などとしか認識できない社会の中で生きていかなければならないことが, 不幸をもたらすように思われる.
- 生きにくさは, 不便であるが, 不幸とするか否かが増減する.
- 不幸としない, 共生社会の誕生を願う



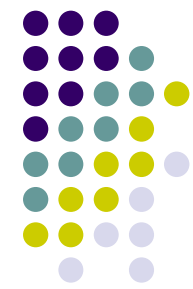
発達と発達の障害

- 発達

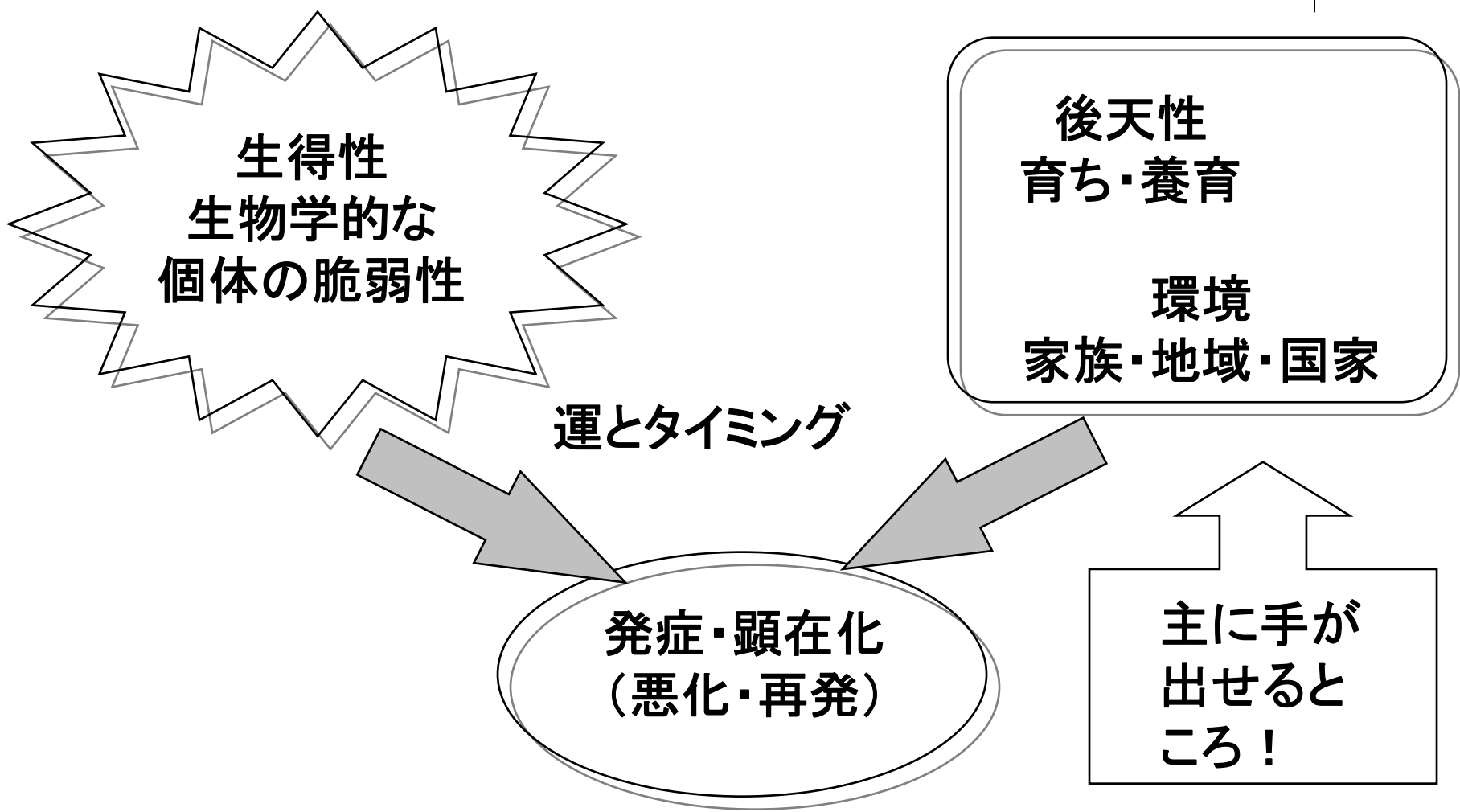
- 人間の一生にわたる身体機能, 知的機能, 精神(心)機能に認められる成長・変容の経過

- 発達の障害

- 成長・変容の過程において, 身体機能, 知的機能, 精神(心)機能に, 「通常」とは異なる**何らかの負の様相**が現れ, それが一過性に消退せず, その後の成長・変容に**何らかの影響**を持続的に及ぼしている状態

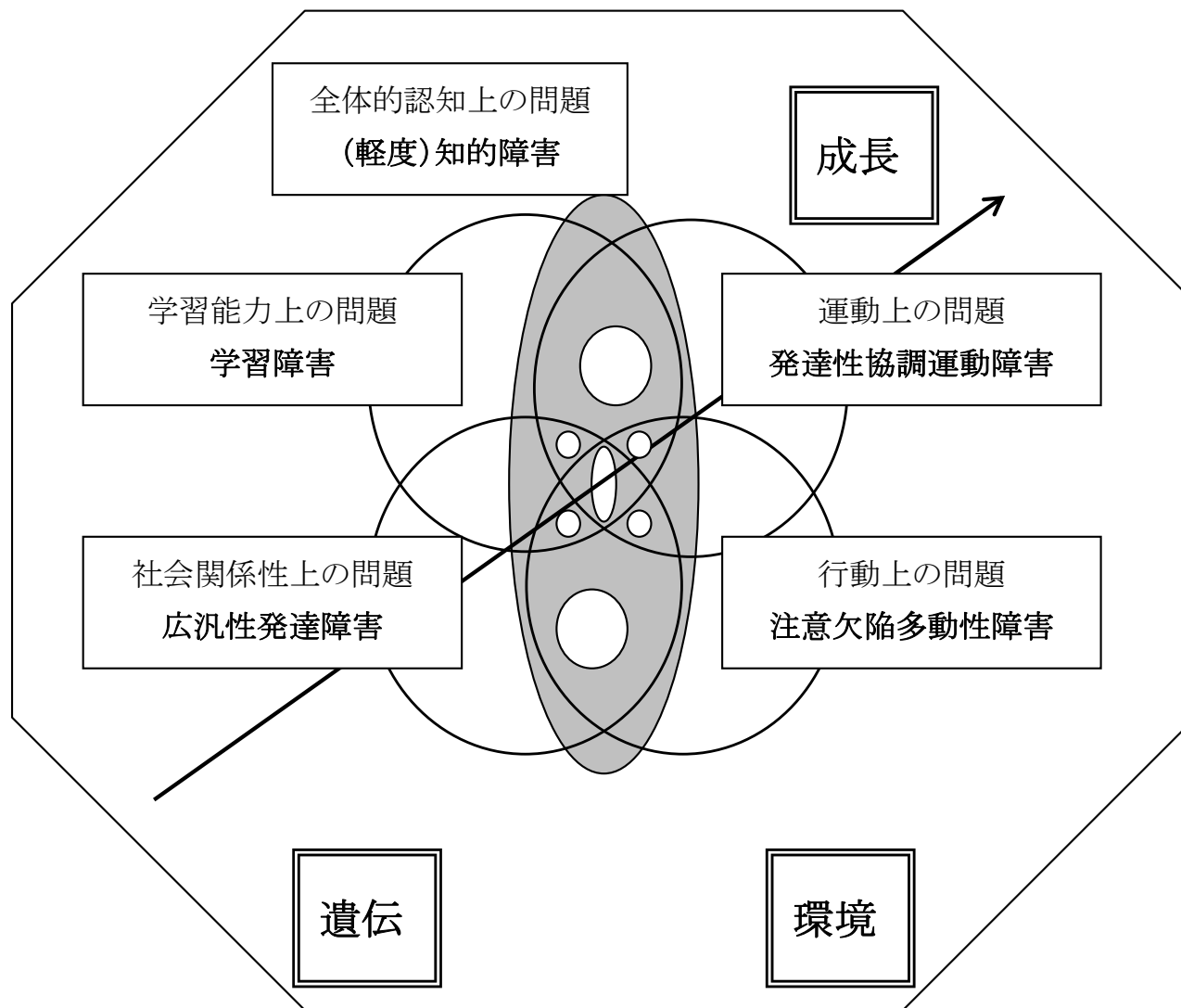


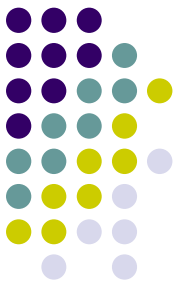
発達・精神障害発症モデル





軽度発達障害の認めにくさ





軽度発達障害が抱える困難性

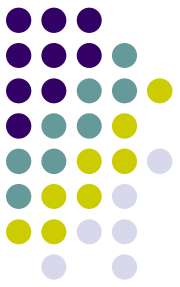
- この障害がないと想定される子どもたちとの連続性のなかに存在し、加齢、発達、教育的介入により状態像が著しく変化する。
 - 診断、判断の難しさ
- 視点の異なりから診断が相違してしまう。
 - 診察室で見せる子どもの言動は、その子どもの特性のすべてを物語っているわけではない。
- 理解不足による介入の誤りが生じやすい
 - 他の障害との見誤り
 - 親のしつけのせい
 - 関係者の指導力不足
 - 心配のし過ぎ、様子を見ましょう
- 二次的情緒・行動障害の問題が生まれやすい
 - 基本症状よりも大きな課題となりやすい周囲の理解と本人の主観にズレが生じやすい
- 当事者の主体的参加が困難
 - 子どもから大人に至る上で、「ズレを含んだ生涯にわたる生きにくさ」への共働的理解と学際的対応が不足している



軽度発達障害の特徴

広汎性発達障害(自閉症・アスペルガー症候群など)

特徴	1)社会性の障害 2)コミュニケーションの障害 3)想像力の障害とそれに基づく行動の障害 4)感覚の過敏さ
基盤	「わからない！」という恐怖に近い強い不安
親の苦 労	早期の信頼関係樹立が困難・理解してもらえないことの憤り キビキビしたものの言い方・硬い印象を与える
対応	視覚入力を生かす構造化 強制しない一貫性のある対応で安全性の提供を



広汎性発達障害の疑似体験

- ひとりぼっちで火星にいる姿を想定してみてください・・・



軽度発達障害の特徴

注意欠陥／多動性障害（AD/HD）	
特徴	1)多動 2)注意散漫 3)衝動性
基盤	「わかっている」のに、自己制御不能、うまくできないことのもどかしさ
親の苦勞	常にイライラした関係性・周囲から非難を受けやすい 自責と子への攻撃性
対応	行動統制のための表の利用 自己評価を落とさないため「良い」評価とできることを保証 親のサポート・薬物の使用

注意欠陥多動性障害の疑似体験



- 二晩徹夜した明け方の気分を想像してみてください。。
- 徹夜麻雀, パジャマパーティーを想定して, 明け方の気分を想像してみてください。。。



軽度発達障害の特徴

学習障害(読字障害, 書字障害, 算数障害)	
特徴	1) 読み 2) 書き 3) 計算
基盤	「なぜできないのだろう」、「どうやらこれがバカということらしい」
親の苦勞	わからない相手への関わり方にジレンマ(なにが分からないかが分かり得ない)
対応	疑似体験で関与する側の理解力のアップとわかることへの接近 1) わかりやすい指導 2) 身体バランスの強化 3) 感情の表現と理解を促す



軽度発達障害の特徴

発達性協調運動障害	
特徴	運動面の不器用, 協調運動の拙さ
基盤	皆ができるように, 体が動いてくれない不自由さ
親の苦勞	いらいらと焦り, 怒りや不安, 不憫さ, 申し訳なさ,
対応	競争的競技に無理に参加しない 適切な手助けを遠慮しない 時間がかかるが克服できる範囲もある



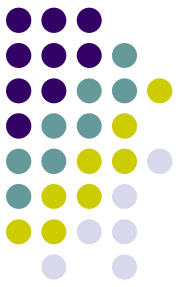
軽度発達障害の特徴

軽度 精神遅滞 (IQ50-70前後)	
特徴	発達全般の遅れ
基盤	「わかる」ということがよくわからない
親の苦勞	漠然とした希望と不安・焦りと強制
対応	自己評価を落とさないために「良い」評価 ナイーブさ. 自信のなさに注意 適切な受け皿作り わかることの重視



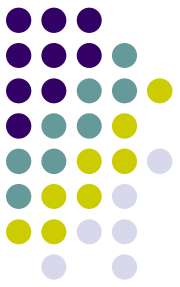
軽度発達障害の周辺

不適切な関わり（虐待・養育放棄）	
特徴	1) 身体的虐待 2) 心理的虐待 3) 性的虐待 4) ネグレクト 5) DVの目撃
基盤	「わかってほしい」が、わかってもらえないという挫折
親の苦勞	子ども時代の重ね合わせ 親の育児，子育てへのつらさに共感 刺激をさけて時間をかける
対応	安心できる大人との関係性の再建 試される時間の長さ



基本的対応

- 育ちには育つだけの時間が必要
 - 結論を急がずに待つ
 - 援助の持続
 - 存在を否定しないで、行動を正しく評価
- ほめ方に配慮する
 - 長所を探し、認める
 - 馬鹿にせず、真剣に話を聞く
 - 不適切な言葉はかけない
- 正しく向き合う
 - 言葉や大人の都合で子どもをごまかさず、支配せず、尊重する
 - 言葉だけでなく、具体的な行動を示唆し、時に一緒に行動する
 - 見返りを期待せず信頼する



親の心情(1)

- 障害に対する向き合い方
 - ショック
 - 否認・拒否
 - 怒りと哀しみ
 - 原因の究明と解決策探し
 - 抑うつ状態
- 障害受容について
 - その子の今に向き合うことを受容と呼ぶなら、常に子どもの育ちに並行して、さらに少し先を見ての気持ちである
- 思春期の子どもへの向き合いの困難さ
 - 焦りと怒りと申し訳なさ
 - 将来への不安



親の心情(2)

- この子を残しては死ねない
- 親が先にいなくなるとき、この子はどうやって生きていけるのか
- だれがこの子を支えてくれるというのか
 - 療育手帳の申請
 - 精神障害者手帳の申請
 - 年金などの申請
 - 発達障害者支援法への期待



本人への説明，告知について(1)

- 診断名告知は医学教育の一環である
 - 具体的な困難に対応する技術を持つ
 - 自分の特性には名前が付くことを知る
 - 手に入れた知識を主体的に活用する
 - 他の同じ障害のある子どもを知る
 - 改めて自分自身を肯定的にとらえ直す
- 告知の適応判断
 - 子どもの状況
 - 安定した適応状態
 - 理解力
 - 自己への気づき
 - 秘密を保持できる能力

(吉田友子)



本人への説明, 告知について(2)

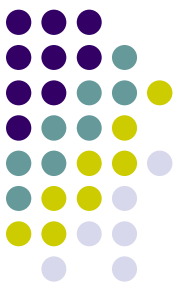
- 告知の適応判断
 - 親の状況
 - 子どもへ伝えたいと実感している
 - 親の支援技術力と家庭における具体的支援力
 - 両親の告知における意見の一致
 - 親を支援する場所の確保
 - 子どもの周困
 - 学校環境
 - 専門機関の利用の確保
 - 子どもが知ることの社会的メリット
 - 地域社会の啓発度具合

(吉田友子)



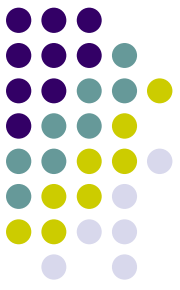
本人への説明, 告知について(3)

- 課題
 - 告知を阻む風土
 - 社会の理解度
 - 障害観
 - 医療, 療育, 教育のサービスの貧困さ
 - 家族内の意見の不一致
 - 合併症, 診断確定の困難さ
 - 専門家同士の情報交換, 共有の程度
- この国が持つ, 被害者, 弱者, 貧困, 障害といった分野への暖かくないまなざし, 排除しようとする風土



子どもが子どもでいられるために

- 人生が長くなっているにもかかわらず、子ども期は短くなっているというライフサイクルのあり方に、すべての大人が関心を持つ必要がある
- 特に、家庭に育児責任がすべて回されるという教育システムを抜本的に見直す
- 先にルールを敷く育て方や早期教育への警鐘を
- 見守るという関係的行為、隣る、添うという関係的行為、聴くという関係的行為、この三つを日常の行為とする
- 大人自身の自己肯定、自己受容を大事にしあう空間の創造を



ほどほどの，応分の心で

- だれでもが，「ほどほどの人」として存在する
- 完璧を求めすぎない
- われわれは，共に悩み，喜び，考え続けることでしか，ない．しかし，それで，十分である
- 大人もまた護られ，支えられる必要がある
- 発達障害は，成長する障害であり，生き生きと生きることの障害であってはならない

立場を知りつつ ～越えられない境界～

